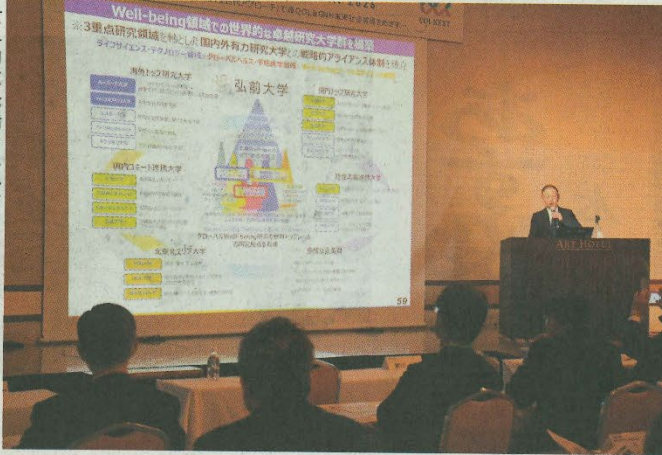


弘大COIネクストサミット 社会実装の最前線紹介

世界的な先端ウェルビーイング研究の開発拠点を目指すことなどを紹介した村下副学長(奥右)



弘前 国内外から3100人参加

弘前市が主催。東京大の大江和彦名誉教授らによる特別講演に続いて、特別企画では地元自治体が弘前大開発の「QOL健診」を活用した取り組み、参画企業が共同研究の成果や社会実装の最前線を紹介した。

サミットは弘前大と県、弘前市が主催。東京大の大江和彦名誉教授らによる特別講演に続いて、特別企画では地元自治体が弘前大開発の「QOL健診」を活用した取り組み、参画企業が共同研究の成果や社会実装の最前線を紹介した。

弘前大COIネクストは、健康を基軸とした経済発展モデルと全世代へのアプローチによって「ウェルビーイングな地域共創社会」の実現を目指す取り組みで、弘前市などと共同で実施する大規模住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」の超多項目な健康ビッグデータを核に、多くの企業や大学が参画して研究を進めている。

ウェルビーイング(心身と社会的に健やかで幸せな状態)な共創社会の創造を考える「弘前大学COI-NEXT(ネクスト)ウェルビーイングイノベーションサミット2026」が6日、アートホテル弘前シティで開かれた。会場とオンラインを合わせて国内外から約3100人が参加し、特別講演や特別企画などを通じて、弘前大が構築した産学官民金連携の取り組みや研究成果、社会実装について理解を深めた。

(稲葉智絵)

基調講演では、弘前大COIネクスト拠点長の村下副学長が20年以上かけて構築した産学官民金の連携基盤の確立といった成果や、今春から本格始動する国の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」について紹介。世界的な先端ウェルビーイング研究の実証、開発の普及の方策について「受診団体に合わせてカスタマイズ」「移動型」「人工知能(AI)の活用」といった提案が出た。村下副学長は「多くのヒントを頂いた。私たちが目指す社会の構築に向けて力強く進めていく」と意気込んだ。